

# 第3回「アメリカで沖縄の未来を考える(TOFU)」 東京派遣プログラム 参加報告

外務省による海外派遣プログラム(TOFUプログラム※)が、令和3年3月22日~25日に実施されました。第3回目となる本プログラムは、新型コロナウイルスの影響を踏まえ、米国渡航を中止し、東京に派遣する形式で実施され、本市からは市内在住の高校生(当時)3名が参加しました。

プログラムでは、日米関係に携わる実務者や国際社会で活躍する有識者への面会(オンライン含む)、視察等を行い、日米に対する理解を深めました。

※TOFUプログラムとは…

「アメリカで沖縄の未来を考える(TOFU:Think of Okinawa's Future in the U.S)」プログラムの略称。

沖縄の将来を担う高校生・大学生を米国に派遣し、同盟国・米国のありのままの姿、国際社会における日本の役割を目の当たりにする機会を設け、米政府・国連関係者との面会や現地学生との交流、歴史/文化施設の視察等を通じ、相互理解の増進を図ることを目的としたもの。

## プログラム参加報告



仲村 健人さん

私は今回のプログラムに参加して、日米関係について多くの知識を得ると同時に、地元である沖縄について深く知ることが出来ました。私がプログラムの中で一番印象に残っているのは首相官邸に行ったことです。テレビでしか観たことのない場所だったので、とても興奮しました。私はこの4日間沖縄の諸問題について様々な視点から考え、議論することができました。将来的にはこの経験値を沖縄に還元できるような人材になりたいです。



キャロライン・ケネディ元駐日大使表敬(オンライン)



米国人学生とのオンライン交流



宜保 優希さん

今回、TOFUプログラムの中で最も記憶に残っているのは中満泉国連事務次長のお話です。TOFUプログラムの1つの核となるテーマであった基地と安全保障の問題に、大きく関わる核軍縮について質問をした際に「対話と交渉以外に問題解決の道はない」と仰っていたのが印象的でした。ほかに多くの活躍している方々のお話を伺うことができ、非常に勉強になりました。コロナ禍にも関わらず、このような素晴らしい機会を下された全ての方に心から感謝申し上げます。



国際協力機構(JICA)訪問

このプログラムに参加する前は、基地に対してネガティブな感情ばかり持っていました。参加してみると、基地があるからこそその恩恵や利益などを知ることができて、基地に対する考え方が大きく変わりました。特に、沖縄の人々とアメリカ人はもっと歩み寄りなければならぬと言われたことはすごく印象に残っています。普段生活している中ではなかなか体験できない、有意義な時間の中で得た学びをこれからも日米関係のために何かひとつでも活かしていきたいです。



桃原 嬉さん



知花くらら国連世界食糧計画親善大使表敬



河野太郎沖縄担当大臣表敬(オンライン)

お問い合わせ先: 基地渉外課(内線:5212)